

第九章

みんなですすめるまちづくり

(一) 市川地区中央部まちづくりの歩み

市川地区中央部では、現在、町と住民の協働によるまちづくり事業が進められている。そのあらましを紹介しよう。

◆まちづくり懇談会の活動

市川大門町時代の昭和六十年前後に商店街活性化の調査、平成始めには都市整備の調査が行われたが、中央通りの歩道整備などが一部実現したのみで、市街地を大きく変えることはなかった。

住民参加によるまちづくりが始まったきっかけは、実は阪神・淡路大震災である。山梨県では平成十一、十二年度に、県内の地震に関する危険度を調査したところ、甲府市、鰍沢町などと並んで、この市川地区中央部地区が

県内の木造密集地の一つに浮かびあがり、モデル地区に指定された。当初は、区画整理により面整備をとる意識もあがったが、いず

れにせよ住民の参加が重要ということになった。これをうけて平成十四年二月、町では全戸にまちづくり通信を配布し「まちづくり懇談会」の会員募集を始めた。行政と住民で一緒に計画をつくらうというよびかけは、そのころ県内では稀であった。

懇談会に集まった住民は、大学や専門家もまじえて話し合いを始め、学習会①・まち歩き②・他地区見学会③・アンケート、「意見をうかがう会」など行い、平成十五年三月「まちづくり提言」を町長に提出した④。

その中に、道路の改善、定住環境づくり、商店街活性化などとともに、「市川のまちの資源活用」が提起された。懇談会の話合いの中で市川には問題点もあるが、「歴史を感じさせるまち」「きれいな水と緑、景色がよいまち」「静かで落ち着いたまち」「生活に便利なまち」などそれ以上に魅力が多いまちであることが確認されたためである。

この懇談会の提言をうけ、町は「まちづくり推進計画」を作成、その趣旨に即して国の「街並み環境整備事業」を平成十七年四月に導入した。また、平成十七年度には「全国都市再生モデル事業」の適用も受けている。



図9② 参加者によるまち歩き
(平成15年12月)



図9① まちづくり懇談会の様子

◆「まちづくり研究会」の活動

住民が中心になった「まちづくり懇談会」に先だって、まちづくりの意思決定を行う「まちづくり研究会」（町長が会長で、学識者、議会、職員の他、山梨県・懇談会長も参加）③が設置された。計画策定後は、住民の関わった課題別のプロジェクトチーム（当初８チーム）もできて計画の実施に取り組んだ。

当初は、どのようなまちづくり事業制度を適用するか定まっていなかったため、県・市内各課、住民等様々な関係者がいっしょに検討する必要があったためであるが、この全庁的横断組織ができたことで、「オール市川」でま

ちづくりに取り組む体制が生まれたわけで、この研究会は重要な役割を果たしている。

（二）実現した様々なプロジェクト

住民提案が実現したものもあれば、町が提起し住民の意見をいれて実現したものもある。

★「市川まちづくり拠点の開設」

商店街の空き店舗（元は住民に親しまれた「ケーキ店」）を町で借り受け、会議、案内や相談、イベント、趣味グループ等で活用する場を確保した⑤（平成十六年六月）



図 9 ④ 懇談会から町長にまちづくり提言提出（平成 15 年 3 月 19 日）



図 9 ⑤ 市川まちづくり拠点



図 9 ⑥ まちかどスポット「柿の木の辻」



図 9 ③ まちづくり研究会
（平成 28 年 6 月）



図 9 ⑧ まちかどスポット
「中北の井戸端」



図 9 ⑨ まちかどスポット
「北河原の散歩道」



図 9 ⑩ まちかどスポット「蘆洲の庭」



図 9 ⑪ まちかどスポット
「落合の道祖神」



図 9 ⑦ まちかどスポット
「秋葉の辻」

★「狭あい道路拡幅整備事業」（平成十七年五月） 建てかえにあたって、道路後退した箇所を町で整備する事業（今では市川三郷町の都市計画区域全体に適用。なお、山梨県で「連担建築物設計制度（同年四月）を創設した（平成二六年段階ではまだ未活用である）。

★まちかどスポットの整備

まちの歴史的資源ともいうべき水路、道祖神、井戸などを活用し憩いの小スペースを整備。地元の書家や児童が揮毫した標示石を設置している。近所のみなさんで清掃してい

ただいている。以下の小広場等ができています。

○「柿の木の下」（平成十九年三月）

柿の木と屋敷神を中心に、市川の清流に親しむ空間に修復した⑥。

○「秋葉の辻」（平成十九年十二月）

路地を上げた際に水路と道祖神を配した広場を整備、高齢者施設に隣接している⑦。

○「中北の井戸端」（平成二十一年三月）

古くからの共同井戸を手押しポンプで復活し、防災器具、ベンチ・掲示板を置き、双体道祖神も保存している⑧。

○「北河原の散歩道」(平成二十一年三月)

福寿院く円立寺裏の荒れていた水路沿いを歩道に整備した。別名はせせらぎの散歩道⑨。

○「蘆洲の庭」(平成二十三年度三月)

郷土史研究家の村松蘆洲邸跡、遺族から寄付を受け、自邸の庭をイメージした広場・井戸を整備⑩。

○「落合の道祖神」(平成二十四年三月)

高田に通じる落合の通りの要所にある道祖神、お地蔵、六地藏、石碑等がある一角を修復⑪。

★「中央通りの通行実験、美装化」

平成十八年に商店街で対面通行や駐車スペースの可能性について社会実験を行い、アンケートやその結果をもとに、歩きやすい通り空間の整備計画を策定、平成二十三年より美装化・バリアフリー歩道の整備が始まっている⑫。

★「市川大門散歩マップ」



図9 ⑬ 「紙のまち生き生きまつり」

社寺や歴史的な建築物、街並みをスケッチで案内する。町建設課が都市再生調査の一環として市川マップの会に制作を依頼発行した。

★「紙のまち生き生きまつり」(平成十八年)

中央通りに市川特産の障子紙(百米ロール数本)を並べ、その年のテーマに即して参加者が筆をふるって書や絵を描く「巨大絵巻づくり」を軸に、巨大行灯、巨大折り鶴、書道パフォーマンス等を展開する⑬。



図9 ⑭ 「まちなかラリー」



図9 ⑫ 中央通りの美装化

★「摩利支天花火の日まちなかりー」（平成十八年）

地元の摩利支天花火の日にあわせて、昼間、山梨大の学生サークルが中心になって、子どもたちを対象にクイズラリーを開催^⑭。

★「通学路の壁画づくり」

平成五年に小学生が描いた壁画が劣化したので、関係者に呼びかけて、市川小学校全年と中学校・高校生有志により平成二五年夏に壁画を新しく描いた^⑮。

他にも、まちづくり協定の策定と広報、防火水槽整備などがある。

これらのプロジェクトは、住環境の改善と、まちの歴史や文化、まちの資源を、後世に伝えるという点の両面を重視して展開している。

(三)「住まいのデザインノート」の作成

まちなかには明治から昭和始め頃の建物も多く、建築物の保存と街並みルールが必要という意見が当初から寄せられていた。懇談会は、好ましい風景を創り出している、「市川ら

しい建物」をまちの中から探すことから検討を始めた。

話合いの結果を、傾斜屋根、自然素材の推奨、近隣に配慮した高さなど「ガイドライン案」にまとめ、町民及び県内の建築士にアンケートを行った。

しかし賛否は二つに割れた。特に、今日では昔ながらの建物は費用、技術や素材の面で困難になっており、統一した基準では対応できないという意見が強かった。たしかにまちの建物は、町屋式の店舗、庭が素敵な住宅、昔ながらの土蔵、長屋・作業場・農家、大小の敷地、新しい建築物（悪いものばかりではない）など多様で、それらが混在し緩やかに変化していることがこの街並みの魅力であり、住人がそのことを大切にする気持ちがいまず重要という理解にいたった。

このことから、新しい建築を行う場合に、伝統と文化に裏打ちされた「市川らしい」街並みづくりに配慮してもらうことを、建て主や設計者に理解していただくという方針に変更し「住まいのデザインノート」^⑯を作成した。前書きには「現在では、昔のような建て方は出来にくくなっており、このまま放ってお



図9 ⑯ 住まいのデザインノート



図9 ⑮ 通学路の壁画づくり

けば、どこにでもあるような乱雑な街並みになるおそれもあります。それを防ぐためにも、どのようなカタチが育まれてきたのかを知ることが必要です。このことから、今回、好ましい街並み形成に役立ってきた市川の建物のデザインを集めて、小冊子にまとめました。／伝統的な住まいに込められた先人の思いとそれによって生み出された街並みを生かして、今後の住まい等の計画づくりの参考にしていただければ幸いです。」とある。

「まちに伝わる住まいのデザイン・カタチ」を二十一項目に分け紹介、その上で、「美しい街並みに役立つ住まいづくりを心がける」「今の住まいを大事にして継承する」ことを訴えている。

この冊子は作成後、協力いただいた県内建築士に送付した。町内で建てる方がいれば会員が手渡し、参考にしてもらうという使い方をしている。市川では街並みに気を遣って建築してほしいというメッセージが伝わることを願っている。

(四) いれからのまちづくり

新しく市川地区中央部のまちづくりが歩み出して十数年経過したが、難しい課題も多い。例えば、車の時代の考え方のまま残っている道路計画、人口減少に伴って増加する空地・空き家の活用や定住対策、建て替え困難敷地解消、保存したいが取り壊される伝統的な建築物などの課題は、解決策が簡単ではない。

現在、懇談会と町のプロジェクトチームでは、「市川陣屋御門を再びまちの中心に戻そうプロジェクト」に着手した。これは歴史と人々を見守ってきた代官所の長屋門を元に近い位置に戻し、周辺を合わせて市川のよりどころとなる空間に再生しようという試みである。また、初夏にはホテルが街の中にも飛び交う環境を持続しようという取り組みも始まった。まちを誇り愛する気持ちを持続して、それをみんなが合わせていけば、様々な課題は乗り越えられよう。山梨県の小さなまちで、まず自分のまちを見つめ直すことから始まった等身大のまちづくりの今後に期待したい。

参考

市川三郷町HP「市川地区中央部のまちづくり」
<http://park.wakwak.com/~ichikawa-machi/>

市川地区中央部の住まいのデザインノート 「街並みを育ててきた 市川の『建物のカタチ』を考える」 (平成二十二年三月) 目次

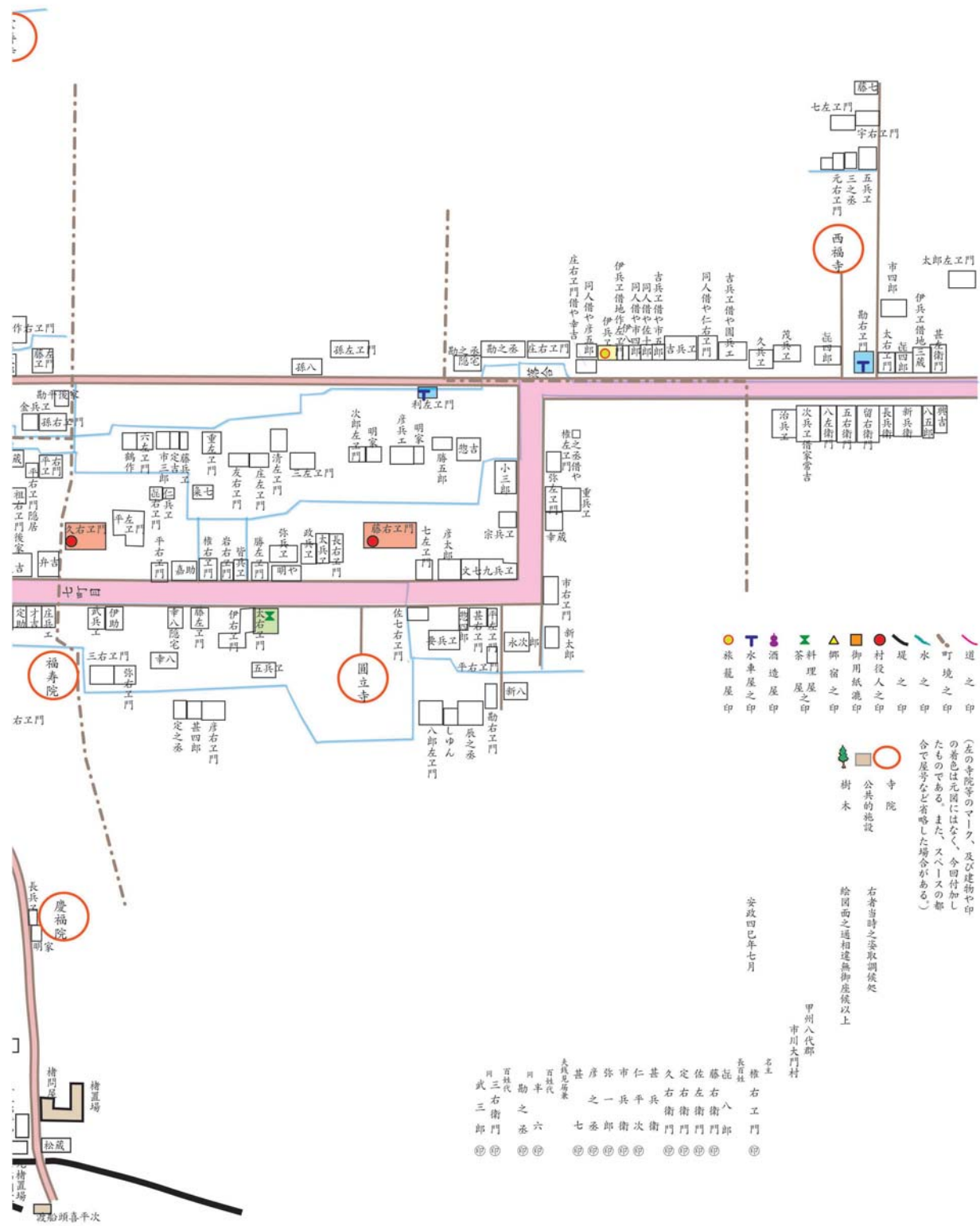
1 市川地区中央部に伝わる住まいのデザイン

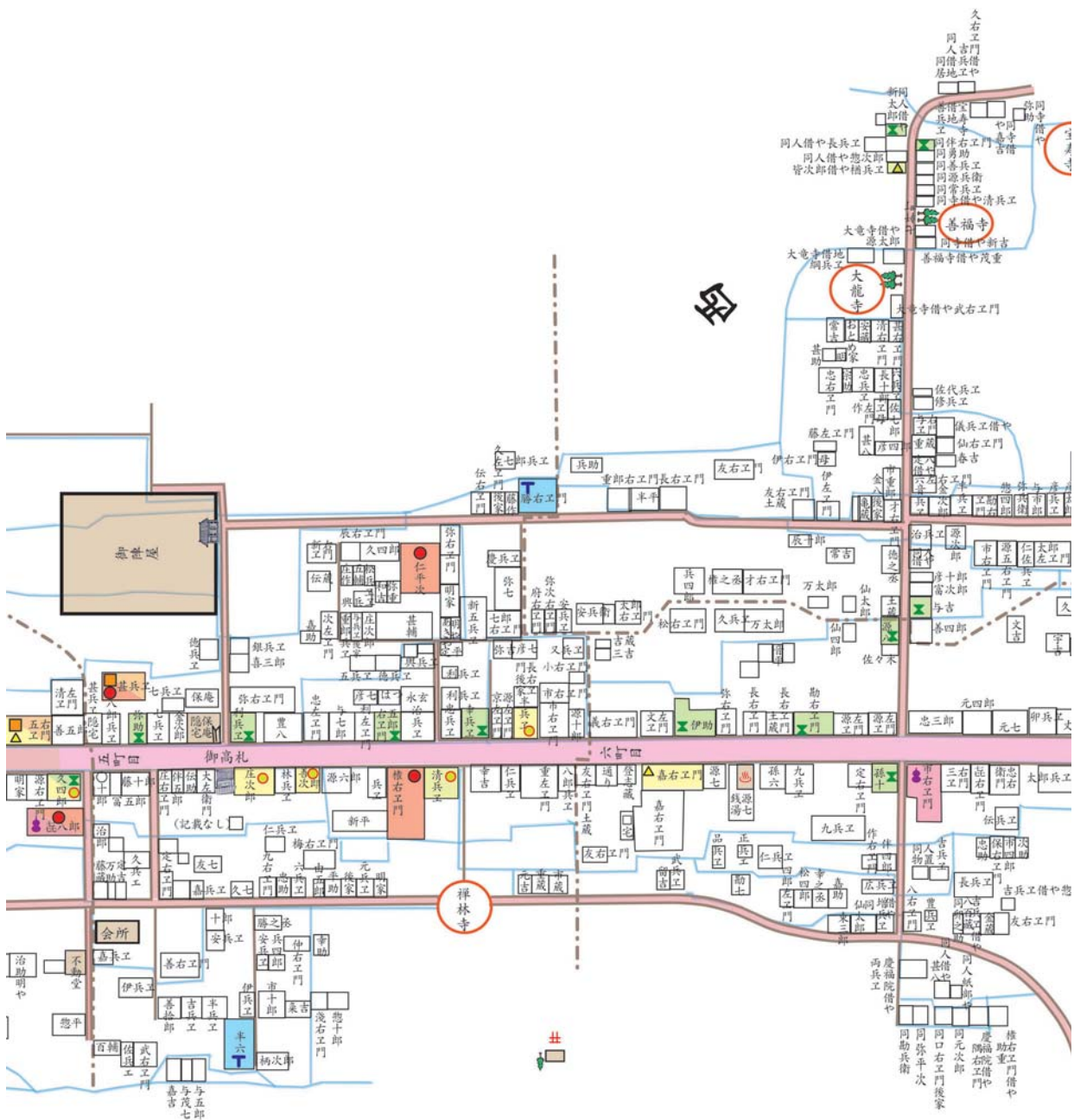
- (1) 一、二階建てが連なった街並み
- (2) 五寸勾配の瓦屋根
- (3) 二階よりも一階が大きい安定感があるかたち
- (4) 蔵を活かし、蔵に住まう
- (5) 棟を分ける
- (6) 棟を重ねる
- (7) 小屋根・下屋、庇で壁面の表情を豊かにする
- (8) 自然の素材を組み合わせ壁面の表情を豊かに
- (9) 人とうちとける窓
- (10) 玄関のおもてなし
- (11) 自然素材に学んだ穏やかな色彩と配色
- (12) 通りに開いたみせ空間・粋な看板・暖簾
- (13) 袖掛け手摺
- (14) 戸袋の表情
- (15) 瓦
- (16) 外構
- (17) 緑や花などの自然を取り込む
- (18) 水路を活かし、生活に取り込む
- (19) 敷地と道の境界線「道・ヒヤ」を大事にする
- (20) 共同の場所の特徴を大事にする
- (21) 隠す工夫（他のまちにも学ぶ）

2 街並みに役立つ住まいづくりを考えよう

- (1) 住まいづくりの基本を考えよう
- (2) 地区の特性に応じた住まいづくり
- (3) 住まいづくりで配慮したいポイント
(建物の配置や用途／高さ等／屋根／壁とバランス／素材と色彩／玄関スペース等／塀・囲い・家廻り／窓・格子／その他)

卷末資料 江戸末期安政四年の市川大門村並図

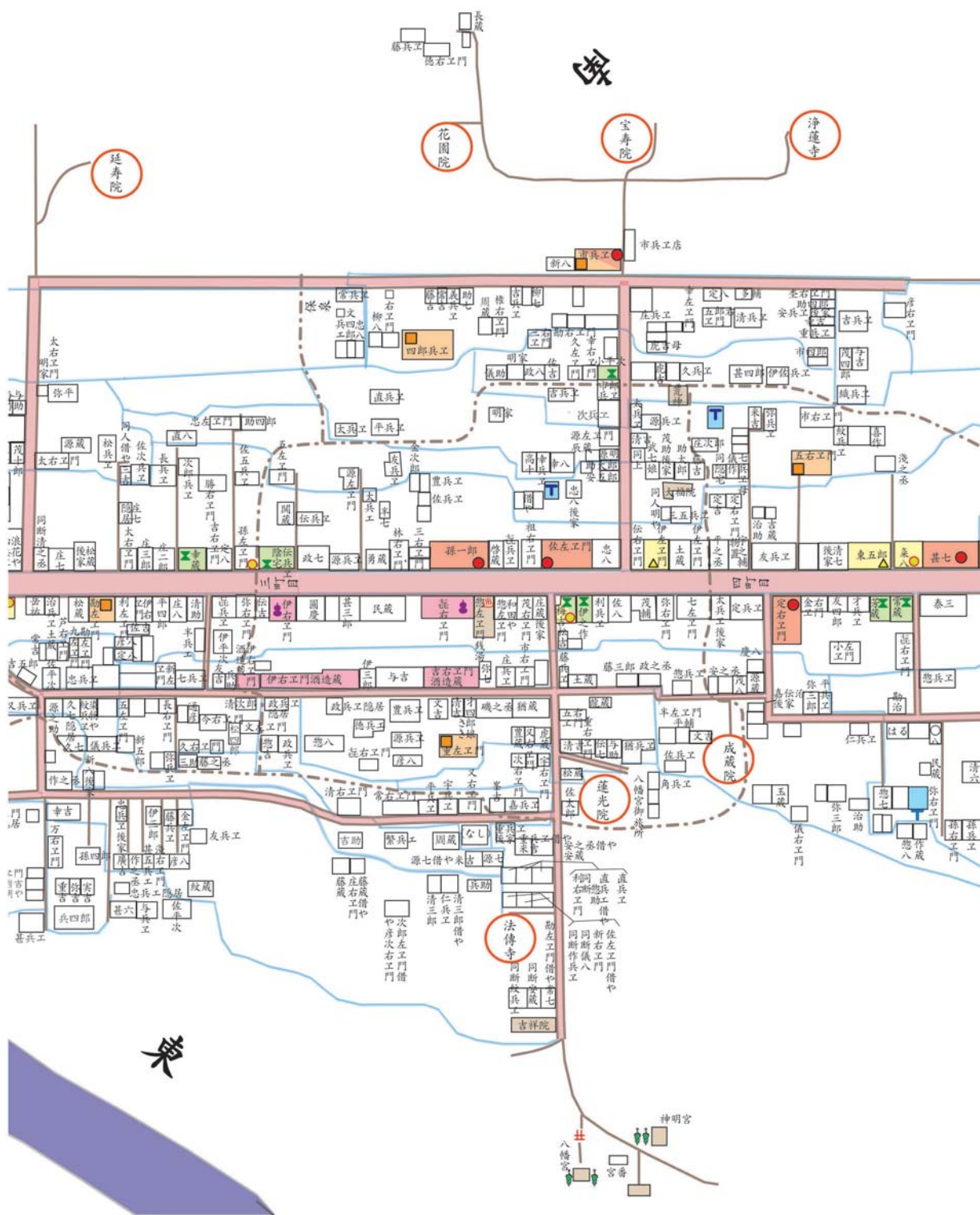




★制作経過

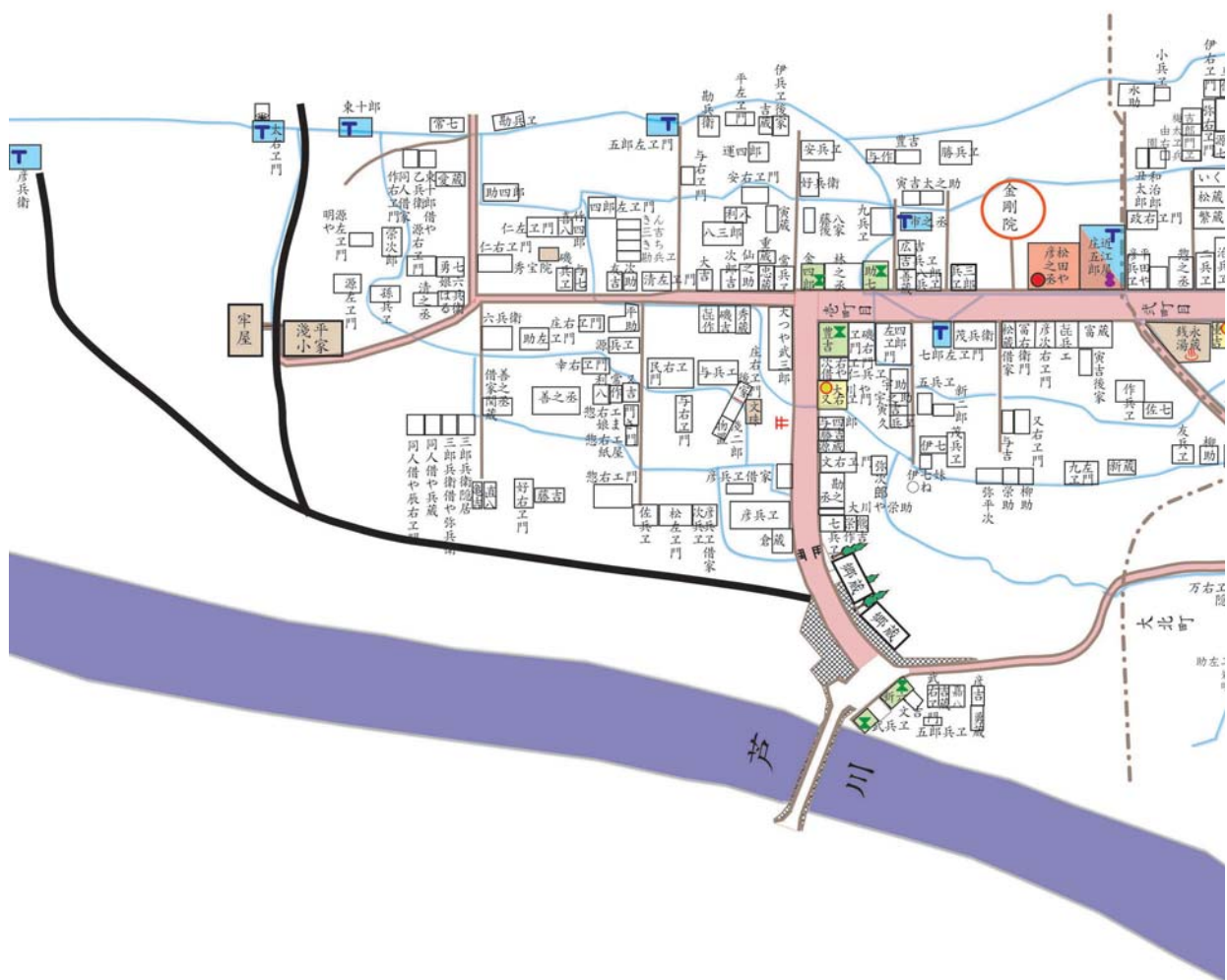
市川三郷町が保有している安政四年（一八五七）市川大門村並絵図（市川三郷町指定文化財）を、都立航空工業高等専門学校教授菊池邦彦先生（峽南の歴史文化や富士信仰を研究）が解説・作図されたので、それをトレースして作成した。元図の大きさは423 cm × 137 cmである。

なお、町保有の元図は、折地図（安政四年二月六日）と巻地図（安政四年七月）があり、ほとんど同じであるが、一二頁下部の連判部のみ新しい後者を記し、その他は折地図に記された名前を記している。



市川大門村絵図

安政4年(1857)7月



参考資料

執筆にあたって参考にした主要な著作物・論文等は以下のとおりである。
(順に、著者、書名又は論文名、所収 発行者、発行年を示す)

◆ 各章・コラムに共通する資料

- ・市川大門町誌刊行委員会 「市川大門町誌」 市川大門町 1967
- ・三珠町 「三珠町誌」 三珠町 1980
- ・市川大門町教育委員会 「秋山家所蔵勤役中日記」 市川大門町郷土資料集 No. 2 同町教育委員会 1996
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町誌稿本、高田村誌」 市川大門町郷土資料集 No. 3 同町教育委員会 1997
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町所蔵和紙関係古文書」 市川大門町郷土資料集 No. 4 同町教育委員会 1998
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町諸家所蔵御用紙関係古文書」 市川大門町郷土資料集 No. 5 同 1999
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町一宮浅間神社帳」 市川大門町郷土資料集 No. 6 同町教育委員会 2000
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町所蔵村治関係古文書」 市川大門町郷土資料集 No. 7 同町教育委員会 2001
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町所蔵、法、貯穀、郷宿関係古文書」 市川大門町郷土資料集 No. 8 同 2002
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町所蔵新田開発関係古文書」 市川大門町郷土資料集 No. 9 同町教育委員会 2003
- ・角川日本地名大辞典編集委員会 「角川日本地名大辞典 19 (山梨県)」 角川書店 1964
- ・市川大門町 「目で見える市川百年」 2000
- ・土橋里木監修 「目で見える峡南の 100 年」 郷土出版社 1993
- ・市川大門町 「広報いちかわだいもん縮刷版第 1 集」 市川大門町 1981
- ・市川大門町 「広報いちかわだいもん縮刷版第 2 集」 市川大門町 1991

◆ 第一章 歴史のまち、甲州市川

- ・飯田文弥 「近世甲斐産業近代史の研究」 国書刊行会 1982
- ・市川三郷町所蔵 「市川大門村絵図〈安政 4 年〉」 1857
- ・山梨県立博物館所蔵 「市川大門村明細帳〈享和三年〉」 甲州文庫資料編 1803
- ・佐藤森三他 「山梨の百年」 NHK サービスセンター甲府支所 1968
- ・テレビ山梨「ふるさと地名考」同 1998

○ コラム一「青洲文庫」

- ・東京大学総合図書館HP 「青洲文庫」
- ・中込鯨編集・発行 『素封家渡邊青洲の書画・遺品展図録』 2004

○ コラム二 青洲堤と三川落合

- ・早川文太郎他 「山梨縣水害史」 山梨県水害史発行所 1911
- ・山梨県 「山梨県史 資料編 14 (政治行政 1)」 1996
- ・斉藤俊章編 「郷土史に輝く人々」 青少年のための山梨県民会議 1980
- ・三珠町役場 「三珠町誌」 1980
- ・田富町役場 「田富町誌」 1981

○ コラム三 明治二十年の市川大門

- ・矢羽根孝太郎編 「新撰甲斐國地誌略」 甲府書林懋古堂 1887

◆ 第二章 市川代官所の支配

- ・久留島浩 「近世幕領の行政と組合村」 東京大学出版会 2002
- ・日本文芸社編 「面白いほどよくわかる江戸時代」 日本文芸社 2003
- ・山梨県 / 編 「山梨県史通史編 3 - 近世」 山梨郷土研究会 山梨日々新聞社 2006
- ・西沢淳男 「甲斐国関係代官変遷一覧」 山梨県史資料編 8 近世 1 領主 山梨県教育委員会 1997
- ・「山梨県史資料叢書村明細帳 (山梨郡編)、同 (八代郡編)」 山梨県 1994, 1995

○ コラム四 市川代官銘々録

- ・村上直 「2 人の市川代官について」 甲斐史学 9 号 甲斐史学会 1959
- ・佐藤八郎 「市川代官荒井清兵衛を思う」 甲斐路 16 号 山梨県観光連盟 1961
- ・村上直 「江戸幕府の代官群像」 国成社 1997
- ・石黒忠恵 「懷旧九十年」 1936 (岩波文庫所収)

○ コラム五 御陣屋の建物等の変遷

- ・山梨県 / 編 「山梨県史通史編 3 - 近世」 山梨郷土研究会 山梨日々新聞社 2006

◆ 第三章 市川の地名考

- ・依田 明 「峡南の塩地名考」 峡南の郷土 No. 2 3 峡南郷土研究会 1983
- ・依田 達 「市川庄と市川氏」 峡南の郷土 No. 2 1 峡南郷土研究会 1981

○ コラム六 夢窓国師と平塩の岡

- ・霊亀山天龍寺HP
- ・鈴鹿市合川地区郷土誌
- ・「天龍開山夢窓正覺心宗普濟国師年譜」 続群書類従 第九輯下 伝部 1353
- ・佐々木容道 「夢窓国師-その言葉と生涯」 天龍寺遠諱局 2000

○ コラム七 「市川八景」

- ・土屋夏五郎（夏堂）編 「市川通覧」

◆ 第四章 交通概要の地、市川

- ・山梨県教育委員会 「中道往還」 山梨県歴史の道調査報告書第3集 山梨県教育委員会 1984
- ・山梨県教育委員会 「河内路、西郡路」 山梨県歴史の道調査報告書第7集 山梨県教育委員会 1986
- ・山梨県教育委員会 「若彦路」 山梨県歴史の道調査報告書第8集 山梨県教育委員会 1986
- ・山梨県教育委員会 「市川道」 山梨県歴史の道調査報告書第15集 山梨県教育委員会 1988
- ・山梨県教育委員会 「東河内路」 山梨県歴史の道調査報告書第16集 山梨県教育委員会 1988
- ・市川大門町大同公民館 「富士川舟運」 大同の歴史第2集 市川大門町 1989
- ・市川中学校PTA 「ふるさといちかわ」 1987

◆ 第五章 紙のまち市川

- ・村松志孝 「市川紙業史」 今村三三 1950
- ・市川三郷町立図書館・市川三郷町立製紙試験場／編 「甲斐国紙漉史」 同町立図書館・製紙試験場 2006
- ・飯田文弥 「江戸後期の市川紙業と駿州へ紙漉出稼の差止について」 甲斐第119号 山梨郷土研究会 2009
- ・飯田文弥 「近世甲斐産業経済史の研究」 国書研究会 1982
- ・山梨県／編 「紙漉」 山梨県史資料編11 近世5在方Ⅲ 山梨日々新聞社 2000
- ・斎藤左文吾 「近世製紙業の研究」 山梨日日新聞社 1996

○ コラム八 市川大門の花火

- ・青嶋長雄 「日本の花火」 峽南の郷土No.33 峽南郷土研究会 1993
- ・市川大門町教育委員会 「甲州市川花火の歴史」 市川大門町教育委員会 1994
- ・市川中学校PTA 「ふるさと・いちかわ」 1987
- ・(株) 齊木煙火本店HP／(株) マルゴーHP

◆ 第六章 百祭り・市川のお祭り暦

- ・後藤義雄 「市川大門町の百祭」 峽南の郷土No.33 峽南郷土研究会 1933
- ・青嶋長雄 「花火の歴史」 峽南の郷土No.33 峽南郷土研究会 1933
- ・市川中学校PTA 「ふるさと・いちかわ」 1987

○ コラム九 火防せの神、秋葉さん

○ コラム十 市川の道祖神

- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町の石造物」 市川大門町教育委員会 1995
- ・中澤厚 「山梨県の道祖神」 有峰書店 1973
- ・鈴木英恵 「東西にみる道祖神の現状」 神奈川大学非文字資料研究センター 2001

○ コラム十一 富士講と忍野八海再興

- ・大寄赳彦 「富士と四尾連湖」 山と溪谷社 2004
- ・大寄赳彦 「甲州市川大門領の富士講と元八湖再興」 富士学研究 vol15-No2 富士学会 2007
- ・大寄赳彦 「大我講と四尾連湖の尾碕龍王碑」 富士学研究 vol16-No2 富士学会 2008
- ・渡井正二 「富士山信仰と人穴について」 富士学研究 vol15-No2 富士学会 2007
- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町の石造物」 市川大門町教育委員会 1995

◆ 第七章 まち中に水が流れる市川

- ・山本明弘／大山勲 「生活・文化と結びついた伝統的水空間の特徴の抽出 ― 山梨県市川大門町における水空間再生のために ―」 山梨大学工学部卒業論文 2007

○ コラム十二 まちなかでホタルが光るまち

◆ 第八章 市川の街並みの魅力

- ・市川中学校PTA 「ふるさと・いちかわ」 1987
- ・菊山幸輝／大山勲 「歴史の重層した密集市街地における細路路景観の特徴の抽出 ― 山梨県市川三郷町市川地区中央部を対象として ― 日本都市計画学会学術研究論文集 日本都市計画学会 2007
- ・溝渕浩平／大山勲 「街並み景観保全のための住宅建築様式の現状把握とその評価に関する研究 ― 山梨県市川三郷町市川地区中央部の住まいのガイドラインづくりに向けて」 日本都市計画学会学術研究論文集同学会 2007

○ コラム十三 ヒヤ（路地）の話

- ・市川大門町教育委員会 「市川大門町の歴史・文化・自然 ― 広報いちかわだいもん掲載「ふるさと紹介」100話」 市川大門町 1998

○ コラム十四 中央通りの今昔

◆ 第九章 みんなですすめるまちづくり

- ・市川三郷町HP 「市川地区中央部まちづくりHP」
- ・市川三郷町・市川地区中央部まちづくり懇談会 「市川地区中央部の住まいのデザインノート」 市川三郷町 2009

あとがき

山梨大学大学院教授 大山 勲

今私たちが暮らす地域は、長い歴史の積み重ねの上に成り立っています。祖先から受け継いだ地域の基盤や魅力を失わず、その地域にもともと備わっている特徴や宝を活かし磨きをかけて、後世に伝えていくことが私たちの義務になっています。その歴史との連続を大事にすることで、地域への愛着と誇りを生み出し、私たちは自信を持ってまちづくりに取り組むことができます。

市川地区中央部まちづくり懇談会が発足して十数年が経ちました。町と協働して様々なまちづくりプロジェクトが実現しました。懇談会ではプロジェクトを進める際に、町の歴史や地域の宝の発掘からはじめました。いろいろな史料に断片的に書かれている情報を整理し、特に近代については聞き取り調査などをおこなって事実を確かめました。その蓄積がこの冊子にまとめられています。メンバーで分担して執筆を行いました。情報不足や考証が曖昧な部分も多く残っています。地域の皆様からの情報をお寄せいただき改訂していきたいと考えています。

この冊子が、多くの皆さまに市川地区の魅力を伝えることができ、今後のまちづくりに繋がっていくことを期待します。

◆市川地区中央部まちづくり懇談会（執筆分担）

会長 有泉 一征（はじめに、六章、コラム二・九）

副会長 雨宮 節矢

（一～五章、コラム四・五・七・八・十一・十三）

会員 今村 泰裕（五章）

同 片山 由男（コラム六・写真）

同 青柳 正輝（写真）

同 遠藤 浩

同 遠藤 公夫

同 一瀬 正富

同 一瀬 利博

同 渡辺 一彦

その他の会員のみなさん

アドバイザー 大山 勲（山梨大学、七、八章、あとがき）

同右 吉川 仁（都市プランナー、その他、編集）

協力

・市川三郷町 横田雅明／長田侑也／青木淳／和田豊

・東京都立産業技術高等専門学校 菊池邦彦先生

・山梨大学卒業生 片岡健一／早川和子／佐久間路子／

安留瑞木／山本明弘／菊山幸輝／加藤友浩／溝渕浩平／

鈴木正通／鈴木慎二／斉藤史浩／武井寛／川合徹／

その他、同好会ファンインコミュニティ・大山研究室

のみなさん

歴史と文化、水路とヒヤのまち

『甲州・市川のまちづくり読本』

発行 平成二十七年 三月

改訂 平成二十九年 三月

市川地区中央部まちづくり懇談会（代表有泉一征）

／市川三郷町

事務局

市川三郷町役場 まちづくり推進課 都市計画係

〒四〇九・三六〇一

山梨県西八代郡市川三郷町市川大門一七九〇・三

電話 〇五五（二七二）一一三六

FAX 〇五五（二七二）五六〇一

（非売品）



碑林公園上空から眺めた市川地区中央部
(パラグライダーにて高橋謙二氏撮影) 平成26年5月14日